



令和3年度
神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会
〈 秦野市会場 〉

秦野市の社会教育
～各種団体の変遷と未来へ繋いでいくべきもの～

主催：神奈川県社会教育委員連絡協議会
主管：秦野市社会教育委員会議



目次

会長あいさつ-----	1
秦野市の紹介-----	2
アトラクションの紹介-----	5
人権講話「「めざす人の姿」で育む人権感覚」 ～放課後児童クラブ「クレヨンぼけっと」の実践を通して～-----	9
事例発表	
秦野市社会教育委員会議の現状と研究テーマ設定理由-----	19
事例発表①「社会教育施設について（公的社会教育の事例）」-----	22
事例発表②「子ども会・婦人会について（市民の社会教育の事例）」-----	30
おわりに-----	42

令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会

＜秦野市会場＞開催に寄せて

神奈川県社会教育委員連絡協議会
会長 小池 茂子

今回の研究会は対面での開催を願って準備を進めていただいて参りましたが、オミクロン株による新型コロナウイルス感染の収束が見込めない状況のため、残念ながら今回も対面ではなく書面での開催となりました。

長引くコロナ禍は私たちの暮らしや仕事に様々な影響を与え、地域の中で展開されている社会教育にも少なからぬ影響を及ぼしております。しかし、このような状況にあっても学びを絶やさない努力と実践が地域の中で試みられ、その中から新しい成果が生み出されているのではないのでしょうか。

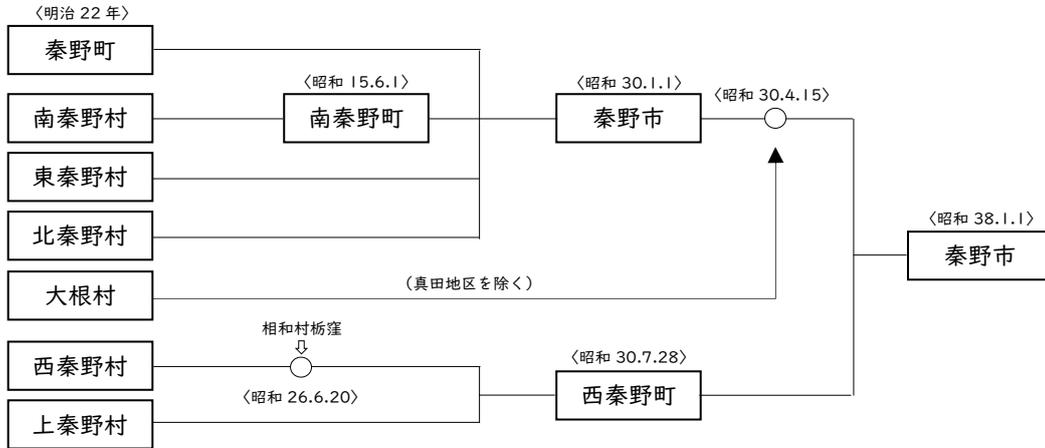
今般の感染症拡大防止の呼びかけにより、人と人とのつながりが絶たれるという難しい状況の中にあっても、社会教育委員の皆さまがそれぞれの場で考え行動したことを通じて生み出したものがあつたとすれば、それは私たちがコロナ後の新しい社会の在り方に向けた、貴重な実績に数えられていくべきものと確信しております。

その意味でも、今回の研究会を通じて社会教育委員の皆さまが取り組んでおられる実践やご苦勞を学ばせていただき、これらの取組と成果をしっかりと記録し後の世に伝えて参りたいと思います。

最後になりましたが社会教育委員の皆さまの日々のお働きに感謝を申し上げ、皆さまのご健勝を祈念しつつ地区研究会開催に際してのご挨拶とさせていただきます。

秦野市の紹介

秦野市の歴史



位置と面積

秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、東部は伊勢原市、西部は松田町、大井町、南部は中井町、平塚市、北部は厚木市、清川村、山北町に接しています。市域は、東西約13.6 km、南北は約12.8 km、面積は103.76 km²で、県内19市中5番目の広さを持つ都市です。東京からは約60 km、横浜から約37 kmの距離にあり、北方には神奈川県の屋根と呼ばれている丹沢山塊が連なり、南方には大磯丘陵が東西に走り、県下で唯一の典型的な盆地を形成しています。



人口と世帯数

市の人口は、市制施行当時3万5,277人でしたが、令和3年10月1日現在161,976人（男81,867人、女80,109人、世帯数70,996世帯）となっています。

秦野市の人口推移

(各年10月1日現在)

年次	人口			世帯数(世帯)
	計(人)	男(人)	女(人)	
昭和30年	50,747	25,016	25,731	9,143
60年	141,803	74,590	67,213	46,699
平成20年	169,777	87,207	82,570	68,688
30年	165,393	84,626	80,767	71,324
令和元年	165,051	84,555	80,496	72,161
2年	162,439	82,134	80,305	70,478
3年	161,976	81,867	80,109	70,996

市章

伝統の誇りと発展向上する「ハダノ」を最も力感ある形で、飛躍発展性と市民の精神的結合の旗印として翼型に図案化し、市の発展を象徴したものです。【昭和 33 年 1 月 1 日制定】



市の木

さざんか 丹沢の美しい自然と澄んだ空気をいつまでも大切に守り、次代へと引き継ぎ快適な市民生活環境の保全を願い、昭和 47 年 4 月 1 日に市の木を制定しました。



こぶし 丹沢の美しい自然と澄んだ空気をいつまでも大切に守り、次代へと引き継ぎ快適な市民生活環境の保全を願い、平成 17 年 4 月 23 日に市の木を制定しました。



市の鳥

うぐいす 自然を大切に守り育て、鳥を愛し、私たちと共存できる豊かで住みよい市民生活環境の保全に願いをこめ、昭和 47 年 9 月 1 日に市の鳥を制定しました。



市の花

なでしこ 丹沢の美しい自然と澄んだ空気をいつまでも大切に守り、次代へと引き継ぎ快適な市民生活環境の保全を願い、昭和 47 年 4 月 1 日に市の花を制定しました。



あじさい 丹沢の美しい自然と澄んだ空気をいつまでも大切に守り、次代へと引き継ぎ快適な市民生活環境の保全を願い、平成17年4月23日に市の花を制定しました。



秦野名水

秦野市は、北方に丹沢山塊、南方に渋沢丘陵が東西に走る、県内唯一の盆地です。

この盆地という地形の恩恵により、地下は天然の水がめとなっており、湧き出る地下水は環境省の「名水百選」に選定されています。

「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」は、国際的な品質評価機関として著名なモンドセレクション「ビール、水&ノンアルコール飲料」部門2018において初出品し、優秀品質金賞を受賞しました。

また、環境省が行った、～名水百選30周年記念～「名水百選」選抜総選挙の「おいしさがすばらしい名水部門」で、「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」が、全国第1位となりました。

本来ですと、この水を会場の皆様にお渡しさせていただく予定でしたが、今回は書面開催という運びとなりました。秦野にお越しの際は、ぜひお手にとってみてください。



アトラクションの紹介

出演予定団体：秦野市レクリエーション協会
秦野市民謡協会

「秦野たばこ祭と秦野煙草音頭」

秦野では毎年「秦野たばこ祭」が9月の第4土、日曜日で開催されています。

煙草耕作に注いだ先人たちの情熱を「炎」に例え、「炎が舞い光が奏でる」をテーマに開催されています。



午ノ年物成金請取覚
寛文六年渋沢村

秦野と煙草耕作の歴史をお話したいと思います。

今から400年前の1600年頃に日本に初めて煙草が海外からもたらされ、江戸時代の初めの1600年代半ばには秦野で煙草の原料である葉煙草が栽培されていました。当時の古文書に年貢として煙草を納めたことが記されています。秦野は田んぼより畑が多く、お米よりも煙草や麦、大豆などの畑作物が多く生産されていました。土壌も煙草を育てるのに適していました。

幕末明治の頃には、全国でも有数の葉煙草産地となり、その耕作技術も大変優れていたことから、秦野にあった専売局の研究機関（専売局試験場）には全国から受講生が来ていたようです。

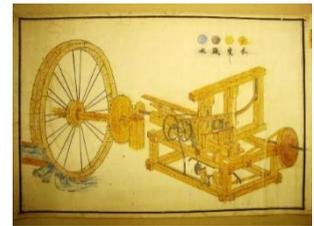


秦野煙草試験場



専売局秦野試験場 煙草の育成

製品としての煙草については、江戸時代、キセルでの喫煙のための「刻み煙草」を秦野でも家内で生産していて、明治になると煙草製造工場がいくつもでき、水車を使った製造機械を発明するなど、製造業も盛んでした。



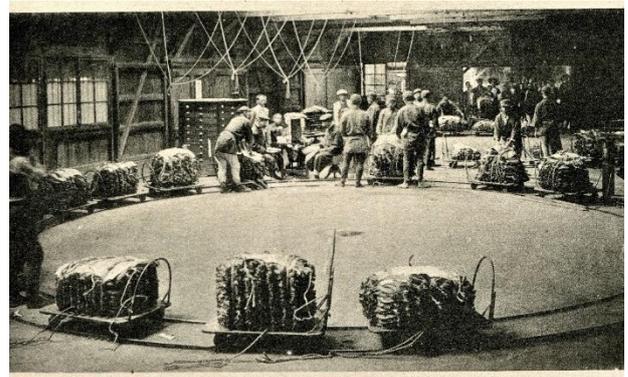
「煙草製造水車器械」

明治 30 年代になると、日清戦争で財政が厳しくなった政府が、収入源を増やすために煙草を専売制にして、煙草の製造販売を民間から官営にして、全国の主要な煙草耕作地に専売局の工場が作られました。ここ秦野にも工場ができたのですが、ちょうどイオン秦野ショッピングセンターがその場所になります。秦野の煙草農家は専売局の許可を得て葉煙草を作り、この専売局の工場に納入することになりました。

大正 13 年には煙草耕作者の組織、神奈川県煙草耕作組合連合会が創立されています。



専売局秦野収納所・製造所



専売局秦野収納所 葉煙草収納

このような歴史から、秦野たばこ祭が始まります。秦野たばこ祭は、この煙草耕作組合連合会の創立 25 周年事業として昭和 23 年（1948 年）に始まり、煙草耕作者の慰労と煙草耕作の振興を目的としたものでした。その記念事業の中で、秦野煙草民謡の作詞を公募し、当選したのは、県立高校教諭小島喜一氏の詞でした。選者には、秦野市出身の歌人、前田夕暮もいました。小島喜一氏は、市内の幼稚園・小・中学校の校歌の作詞も多数手掛けました。

秦野煙草音頭

作詞 小島喜一
作曲 中山晋平



作曲は中山晋平氏です。中山晋平氏は、皆さんもご存のように、カチューシャの唄やゴンドラの唄に始まり、童謡「証城寺の狸囃子」等、新民謡の東京音頭を作曲した大作曲家です。この二人により「秦野煙草音頭」は出来上がりました。

その後、秦野たばこ祭は、主催も商工会議所や秦野市に変わって、次第に商工観光振興のための全市挙げてのお祭りとなり、平成30年（2018年）の「第71回秦野たばこ祭」には、2日間で34万人のも来場者がありました。秦野たばこ祭と秦野煙草音頭は、このような歴史を経て、今日も多くの市民に愛され続けています。

しかしながら、秦野の煙草耕作は昭和59年に終了し、日本煙草産業の撤退など煙草関係の施設もなくなっています。当時を偲ぶものとしては、煙草農家を移築した緑水庵(市内蓑毛)が残されています。緑水庵は国の登録有形文化財になっているので是非訪ねて見てください。



緑水庵（秦野市蓑毛）

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、秦野たばこ祭は中止になっていますが、コロナが収束した折には、秦野たばこ祭が再開し、秦野市レクリエーション協会や秦野市地域婦人団体連絡協議会等が参加する煙草音頭を踊る「たばこ音頭千人パレード」の姿が見られる事でしょう。今回は書面開催となり、「秦野煙草音頭」をliveの演奏と踊りで披露できなかったことは残念ですが、機会がございましたら是非「秦野たばこ祭」に遊びに来てください。



人権講話 「「めざす人の姿」で育む人権感覚」

～放課後児童クラブ「クレヨンぼけっと」の実践を通して～

元秦野市教育委員会教育長 金子 信 夫

1. はじめに

2021年ユーキャン新語・流行語大賞年間大賞は大谷翔平選手の「リアルニ刀流」「ショータイム」になりましたが、コロナ禍の朝、唯一気分を明るくしてくれた彼の活躍からすれば当然かと思えます。

高校生だった彼が「ドラフト1位指名、8球団からの指名」という夢を実現するために「目標達成シート」を作成し、具体的な行動目標に沿って努力し続けたことは有名です。

私が特に興味深く感じたのは、目標達成に必要な8つの要素の中で6～8番目とした「運」「人間性」「メンタル」の3要素です。

優れた指導者のアドバイスがあったとは思いますが、高校生がこのような要素を掲げ、それぞれの動目標の実践に務めたとは驚きであり、メジャーの試合中にグラウンドに落ちているゴミを拾う姿をスポーツニュースで見た時、まだこのシートの目標を実践し続けていることに感動すら覚えました。

大谷選手の活躍とこの目標達成シートに触発され、私の専門分野である教育・教員バージョンを作ってみました。

中心に掲げた目標は「プロ教員になる」とし、その実現に必要な8要素を右図の通り設定しました。

本日は、それぞれの要素についてお話しすることはできませんが、「教科指導力」「児童生徒指導力」「学級経営力」以外は社会教育や子どもの健全育成に携わる指導的立場の人々にも求められる重要な要素であると言えます。とりわけ「豊かな人間性」を身に付けるための具体的な行動目標では、3番目の「人権感覚を磨き続ける」が今回のテーマと重なります。

目標達成シート(曼荼羅チャート)
大谷翔平選手に学ぶ

体のケア	サプリメントを飲む	FSG90%	インステップの成長	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールを叩く	リストの強化
柔軟性	体力	RSQ130kg	リリースの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身の主導
スタミナ	可動域	食事量7杯朝3杯	下肢の強化	体を動かさない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はつきりとした目標・目的を持つ	一番重要な目標に絞る	目標に絞る	体力	コントロール	キレ	軸で回る	フォーク完成	スライダのキレ
ピンチに強い	メンタル	目標に達しない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード160Km/h	体幹強化	スピード160Km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナーチャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に扱う	運	審判さんへの態度	速く正確のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	水を飲む	ストレートと変化球をコントロール	ストレートからボールに投げられる	実行力をイメージ

各要素達成のための行動目標

目標達成に必要な8要素

プロ教員をめざすには

使命感	豊かな人間性	教科指導力
健康	プロ教員	児童生徒指導力
社会人基礎力	コミュニケーション力	学級経営力

謙虚に自分を見つめる	向上心を持って学ぶ	人権感覚を磨き続ける
幅広い道徳性倫理観を持つ	豊かな人間性	公平・平等に対応する
自分なりの教育哲学を持つ	確固とした人生観を持つ	温和で包容力がある

本でご紹介する放課後児童クラブ「クレヨンぼけっと」の設立に関わった私ですが、大前提として支援員には「豊かな人間性」があること、確かな人権感覚を磨き続ける姿勢があることを掲げました。「教育は人なり」の言葉のとおり、子どもたちの人権感覚は周囲の大人たち、指導者たちの生きる姿で育まれます。

放課後児童クラブは福祉的な施設ではありますが、教育施設としての機能をより一層拡充すべきであるとの信念に基づき、「クレヨンぼけっと」では「人権教育」「道徳教育」「学力向上」にも積極的に取り組んでいます。

本日は、実践報告を通して「人権感覚を育む」ことについて皆様と共に考えていきたいと思えます。

2. 「めざす人の姿」で育む人権感覚

「放課後児童クラブ」とは、児童福祉法に基づき、保護者が労働等で昼間家庭にいない小学生を対象とし、遊びや生活を通して基本的な生活習慣の確立等を図り、児童の健全育成を図ることを目的とした施設です。

2020年4月に開設した「クレヨンぼけっと」では以下の基本方針を掲げ、利用する児童たちの具体的で実践的な目標として「めざす人の姿」を定めました。

既存の放課後児童クラブのほとんどが遊びや自由時間で放課後の時間を過ごす環境になっていますが、学習塾や習い事、スポーツクラブに通わせたい、様々な体験・経験をさせたいなどの保護者の願いとは両立できない状況です。「勉強を教えることはしません」とホームページや案内にあらかじめ明示しているケースも多くあります。1日3～4時間の放課後の時間ですが、年間では900時間前後になることから子どもの成長、学力保障にとって貴重な時間になります。

このような現状を踏まえ、子どもたちが価値ある充実した時間を過ごすことができ、保護者の願いや期待に沿うことができる環境として「クレヨンぼけっと」を開設しました。

(1) 「クレヨンぼけっと」基本方針

ア 基本方針1

共働きの世帯数は年々増加傾向にあり、2015年国勢調査の結果では64.6%となっています。女性の社会進出が進み、男女共同参画意識が広まる中、平均年収の減少などにより今後益々増加することが予想できます。それに伴い、子どもたちが安全に生活できる施設や環境づくりへのニーズもますます高まっているということが出来ます。

イ 基本方針2

パイン無垢材による温もりのある優しい生活空間は、上履きを必要としないリラックスできる環境に

基本方針1

働く保護者の方が安心してお子様をお預けいただけるとともに、お子様の成長が具体的に実感できる放課後児童クラブをめざします

基本方針2

清潔で温もりあふれる自然素材の教室、万全の新型コロナ対策、新耐震基準を満たした環境により、真に安全で安心な毎日を堅持しています

なっています。

ウ 基本方針3・4

放課後の時間は子どもたちの多様な好奇心を引き出し、様々な体験を通して成長を促すとともに確かな学力を向上させる貴重な時間です。異年齢集団の良さを活かし、子どもたちの状況を踏まえた学習体験プログラムを計画、実践しています。学習塾、習い事教室、集団活動イベント等を体験できる内容とすることができます。

エ 基本方針5

子どもの健全育成を考える時、道徳性、規範意識・社会性を育む環境であることが必要です。自由に放任するのではなく意図的、計画的な指導や支援できる環境が大切になります。支援員一人ひとりがこの方針に基づき、一貫性のある対応を継続し、子どもたちが理解しやすい行動目標に向かって主体的に取り組むために、良い子が「めざす人の姿」を作成しました。

オ 基本方針6

子どもの「生きる力」を育てるのは学校だけの専売特許ではなく、家庭や地域社会を含めた社会全体で取り組むべき課題であるとして日々実践しています。

具体的には「確かな学力」「豊かな人間性」「健康と体力」を育むことになりますが、保護者の理解と協力が得られるよう「通信」の発行などを通して情報の共有にも努めています。

カ 基本方針7

放課後児童クラブは福祉施設であるとともに教育施設であるべきとの考え方を重視し、私なりに教育実践の経験値を活かし、カリキュラム構成や具体的な対応の工夫や助言を担当させていただいております。

(2) 「めざす人の姿」と毎日の生活・活動

「クレヨンぽけっと」を利用する子どもたちは、小学校1年生から5・6年生までの異年齢集団ですが、年齢による発達の違いが最も大きな集団とすることができます。知識・理解、表現力、コミュニケーション力、社会性など個人差を含めその違いが大きく、効率的な学習集団とは言えません。

反面、お兄さんお姉さんへの憧れや尊敬、弟や妹への思いやりや愛情などがあふれる人間的

基本方針3

お子様を単にお預かりするだけでなく、放課後の貴重な時間を有意義に過ごすことができるよう「学習塾」「習い事教室を組み込んだ活動を実践します

基本方針4

宿題や自習の時間を確保し、自主的な学習習慣を身につけるとともに、苦手意識を克服し、得意教科を伸ばすための本格的な指導により**学習意欲・学力向上**をめざします

基本方針5

「クレヨンぽけっと」の**良い子がめざす「人の姿」**を皆で大切にすることで、**具体的で実践的な道徳性・規範意識・社会性を育みます**

基本方針6

ひとり一人の個性と特性を大切にするとともに、異年齢の仲間の良さを活かしながら主体性や協力性、コミュニケーション力などの**生きる力**を育みます

基本方針7

学習体験プログラム **めざす人の姿**をはじめ「クレヨンぽけっと」の本格的な教育カリキュラムと具体的な内容は、元教育長金子信夫先生がプロデュースしています



な仲間になり得る集団とも言えます。

この集団の特質を活かし、学校では体験しにくい共同生活を通して「生きる力」を育むために具体的な行動目標として作成したものが「めざす人の姿」になります。

ア しっかり挨拶ができる人

外部の方や来客からしばしば「元気に気持ちの良い挨拶ができる子どもたち」とお褒めの言葉をいただきますが、心を込めてしっかり挨拶ができる意義を伝えるようにしています。「気をつけ」ではなく「姿勢を正してください」の号令により子どもたちの心も体もシャキッとします。

イ スッキリ整頓・掃除ができる人

自分もとより仲間の安全安心な生活を確保するためにしっかり後片づけや整理整頓、清掃ができること、自ら進んで取組み、全員で協力し合うことを大切にしています。

ウ 静かに集中して学習できる人

真の学力向上には一人で集中して学習に没頭することが必要であり、発達段階に応じてその体験を積み重ねています。なぜわからないのか、できないのかを考える力を育てる支援、やる気に火をつける支援を大切にしています。

エ 笑顔で協力・助け合える人

打算や計算のない純粋な子どもたちの良い面を大いに伸ばしながら、具体的な生活場面を通してその価値や意義を伝え、笑顔の持つ普遍的な素晴らしさを大切にできる人をめざしています。

差別意識や偏見、一時的な感情や中傷に左右された言動などが「いじめ」を生むこと、互いの良さや存在を認め補完し合うことの大切さを伝えます。

また、インクルーシブ教育を実践できる環境を整え、真の人権教育が実践できる場であるよう努めています。

(1) しっかり挨拶ができる人

(2) すっきり整頓・掃除ができる人

(3) 静かに集中して学習できる人

(4) 笑顔で協力・助け合える人

(5) 心から感謝・お礼が言える人

(6) くじけず最後まで頑張れぬ人

(7) 人・物・時間を大切にできる人

(8) 自分に自信と夢を持てる人

めざす人の姿

クレヨンほけっと

3時のおやつ前に手を合わせて「いただきます」



床も心もピカピカに磨きます



静かに集中して学習(宿題・課題)できます

オ 心から感謝・お礼が言える人

何気ない日常の生活が、実は多くの人々によって支えられていることを知り、気づくことが大切です。「当たり前」や「当然である」を「嬉しい」「ありがたい」と感じることができ、具体的な言葉や行動で表現できる人になれるよう支援しています。

カ くじけず最後まで頑張りぬく人

すぐに弱音を吐いたり、あきらめてしまう子どもや他人に依存する傾向が強い子どもは多くいます。その原因や背景を見極めた対応を工夫することで、励まし、叱咤激励しては成功体験を積み重ねるようにしています。

キ 人・物・時間を大切にできる人

人・物・時間を大切にすることは具体的にどのようなことか、何故大切にするのか、それらについて一人ひとりの毎日の生活を振り返る中で自ら気づき、改善を図ることができるよう支援をしています。

ク 自分に自信と夢を持てる人

ほめる、認めるという外発的動機を刺激することで自己肯定感を高め、自信とともにより高い夢や目標を持つことができる子どもたちを育てます。

(3) 「めざす人の姿」アワード

「めざす人の姿」を単なる飾りや掛け声だけにすることなく、子どもたち自身が日常生活の中でそれらの価値を共有することができるようアワード(表彰)制度を取り入れました。

毎月末の表彰式に向け、子ども自身が「めざす人の姿」をより多く実践できた人、近づくために努力したと思われる人を投票形式で推薦します。

時間や雰囲気流されることなく、一度立ち止まって仲間の良いところを見つめ直すとともに自分自身を振り返る時間を過ごすことに価値があります。

投票は支援員に加え保護者の方にも協力していただき、子どもの良いところ、努力している姿を推薦してもらいます。保護者からは「どうしても注意や小言が多くなってしまいう毎日ですが、子どもを褒めることの大切さを改めて気づかせてもらいありがとうございます」との声が寄せら

「あやとり」も上級生が優しく教えてくれます



「オセロ」「百人一首」「都道府県」ゲーム大会



「めざす人の姿」アワード

良いところ探し・批判より模範・価値観を共有
外発的動機(賞賛と承認)・自己肯定感を育む

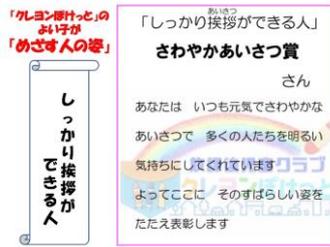


れています。

投票数の多かった子どもたちを表彰しますが、少なくとも1枚の表彰状は手にすることができることで子どもたちの自己肯定感を育み、自信や自主性に繋げるよう努めています。

表彰状は次の8種類になります。

- 1 さわやかあいさつ賞
- 2 ビューティークリーン賞
- 3 全集中学習賞
- 4 スマイルサポート賞
- 5 ありがとう大賞
- 6 ネバーギブアップ賞
- 7 自主・自立・充実大賞
- 8 ポジティブドリーム賞



表彰状(さわやかあいさつ賞)

(4) 「めざす人の姿」タイムの活用

毎日の生活・活動スケジュールの中に「めざす人の姿」タイムを設定し、その内容や意義について子どもたち自身の言葉で確認したり、支援員の体験談などで実践意欲を高めています。

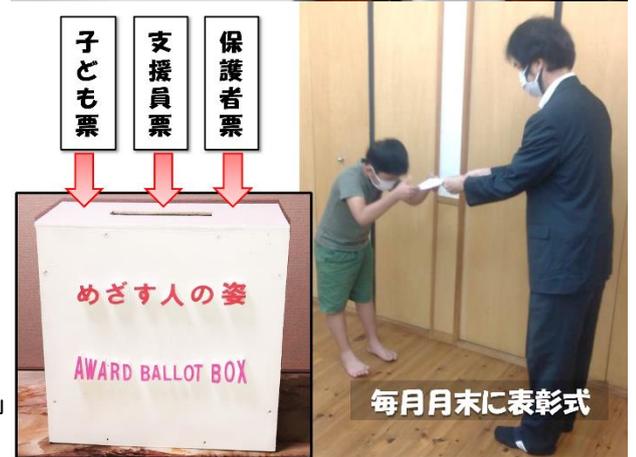
高学年の児童が進行し、低学年の児童の発言を全員で応援する姿は微笑ましく、頼もしく感じます。

時間は10～20分程度ですが、教条的になることなく、子どもたちの主体性を大切にする時間として継続することに意義があります。

皆の応援で人前での発表に自信がきます



「推薦用紙記入」⇒「全員で投票」⇒「表彰式」



読むことで価値を知り、実践意欲を高めます



「宥坐の器」の教訓を語り継ぎます



(3) 理工系スペシャルプログラムで学ぶ

子どもたちの科学的好奇心を引き出し、自然科学への興味関心を高める幅広いテーマについて体験できる時間になります。楽しみながら客観性や合理性、法則性や原理、分析力や判断力を学びます。

「空気砲で遊ぼう」「スライムを作ろう」「ジャンボシャボン玉に挑戦」「磁石と磁力線」などのプログラムは子どもたちにとって不思議で楽しい体験として記憶に残るに違いありません。

「振り子の世界」では振り子の基本原理を学習した後「ニュートンのゆりかご」を自作し、運動エネルギー保存の法則による振り子の運動に夢中になる姿が見られました。

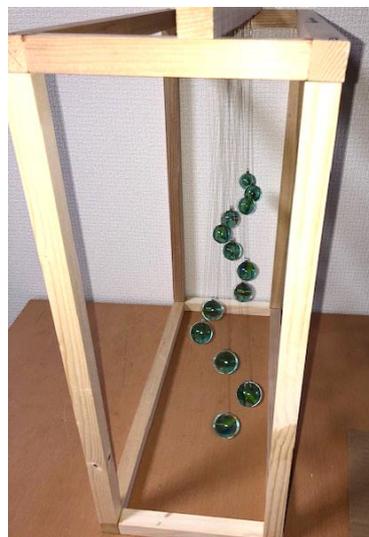
プログラムの最後の「ペンデュラムウエーブ」の観察は、全員が神秘的とも言える不思議な世界の感動体験に驚きの声をあげました。

振り子の糸の長さを調整することで、1分間の中で何回か同期したフォーメーションを見ることがができます。単に振り子が揺れているだけですが、様々なフォーメーションが出現する様子は、大人を含め誰の目にも不思議に見え、引き込まれます。

この装置に使った振り子のおもりは同じ大きさのビー玉ですが、重さの異なる様々な材質をおもりにした振り子を並べて同様な装置を作りました。実際に動かしてみると、ビー玉の時と同じようにきれいに同期してフォーメーションをつくり、最後には1列に揃います。

私はこの装置は単に科学的な実験装置ではなく、「みんな違ってみんないい」とするインクルーシブな世界に導く

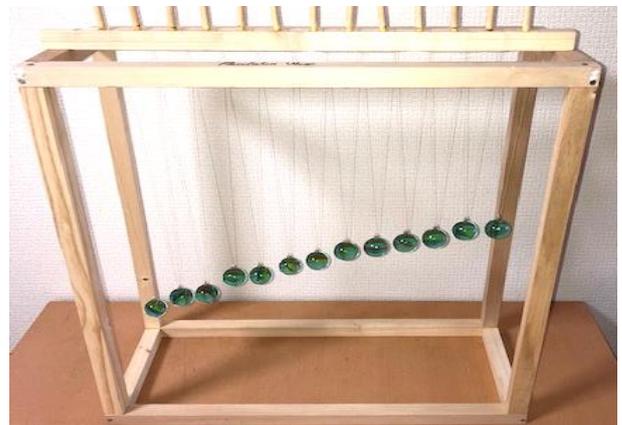
同期フォーメーションのひとつ



ニュートンのゆりかご(カチカチ振り子)



ペンデュラムウエーブ発生装置



インクルーシブウエーブ発生装置



教材として大いに使うことができるものと考えます。学級づくり、協調性や相互理解の指導、道徳や人権教育の導入場面で、興味関心を高める上で役立つものと思います。「ペンデュラムウェーブ」発生装置ではありますが、私はこちらの装置を「インクルーシブウェーブ」発生装置と名付けて子どもはもとより多くの人たちに見て、体感してもらいたいと考えています。

4. 「通信」発行と保護者・家庭・地域との連携

教育の目的は「人格の完成」であるとは教育基本法の第1条に記されていますが、忘れてならないことは教育が学校教育、社会教育、家庭教育の3本柱で構成されていることです。子どもの教育が学校教育を中心に語られることはある程度やむを得ないと言えますが、道徳性や人権感覚などの人間性を育む上で、保護者・家庭の影響が極めて大きいとすることができます。

また、SNSやマスコミ、政治経済など大人社会の動向など子どもを取り巻く環境の影響が大きいことも言うまでもありません。

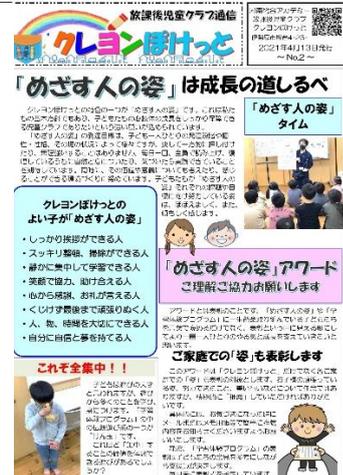
「クレヨンぼけっと」の活動は学校や家庭の教育を支え、すき間を埋めるものということもできますが、特に保護者との協調、家庭教育との連携には力を入れています。

「めざす人の姿」アワードの投票・推薦を始め保護者との連携や子どもの状況や活動目的や内容に関する情報の共有を大切にしており、メールやラインによる情報提供、意見交換は日常的に行っています。併せて活字としての情報提供ツールとして「通信」の発行を月平均2回程発行して、「クレヨンぼけっと」の基本方針や「めざす人の姿」についての理解を深めていただくとともに、子育てや家庭でも大切にしていきたい価値、人権に関する啓発記事についても特集し、家庭でも話題として扱ってもらえるようアピールしています。

いじめや嫌がらせ、差別や偏見を容認

活動・情報の発信 「通信」の発行

- * 月2~3回発行
- * 子どもたちの姿
- * 活動の意義・価値
- * 「人の姿」解説と家庭の協力要請
- * 毎月の学習体験プログラム計画
- * 鳩の目鷹の目



「めざす人の姿」は成長の道しるべ
「めざす人の姿」アワード
ご理解ご協力お願いします

「クレヨンぼけっと」通信 No23 2022年1月11日発行

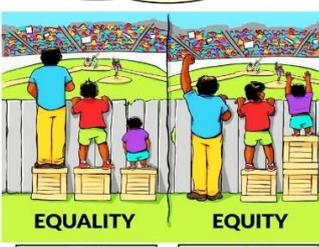
豊かな成長と学びの年に2022

確かな人権感覚を！

「いじめ、暴力、虐待、差別、偏見」などのない人生、社会を築くために

昨年はコロナ禍に加え、様々な悪いニュース、悲惨なニュースが多く、特に人として生きる権利が損なわれたり、いじめや差別で自ら命を絶つ事例も全国で発生しました。「クレヨンぼけっと」では「めざす人の姿」を日々の生活や活動で大切にしていますが、子どもたちが「確かな人権感覚」を身に付けてほしいとの願いがそこにあります。異年齢の集団生活ならではの環境を活かして、誰もが幸せな人生を送る権利を持っていること、誰もが自分らしさを大切にするとともに他の人の個性や特色を受入れて生きることが大切であることを学び、実践できるようにしていきたいと考えています。

平等と公平

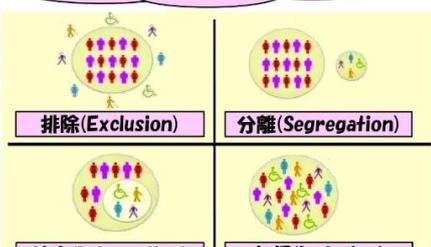


EQUALITY EQUITY

平等 公平

子どもたちにとって平等と公平の区別は難しいようですが、様々な経験を通してこの図の意図するところを理解し、実生活に活かせるよう成長してもらいたいと思います。

排除と分離、統合と包括



排除(Exclusion) 分離(Segregation)

統合(Integration) 包括(Inclusion)

世界の人権課題は「難民問題」「民族差別」「SDGs」などに代表されますが、この図で表す4つの社会状況や制度、意識などのあり方が問われているとも言えます。究極の「インクルージョン(包括)」を実現できる「人の姿」をめざしたいと思います。

Pendulum Wave

(ペンデュラム ウェーブ)

「みんな違ってみんなイイ！」

ビー玉に長さの異なる糸をつけて作った振り子を並べて吊るし、一斉に動かすと不思議な美しい現象が起きます。糸の長さ調整が微妙で大変でしたが、感動と好奇心を生み出す装置になりました。



インクルージョンモデル

本来物理実験の装置ですがインクルージョンの意義や価値を学ぶことができるモデルにもなります。「クレヨンぼけっと」の玄関にしばらくの間、展示しますので是非、不思議な現象を体感してみてください。

盛り上がった立体キャラ選択ドラフト

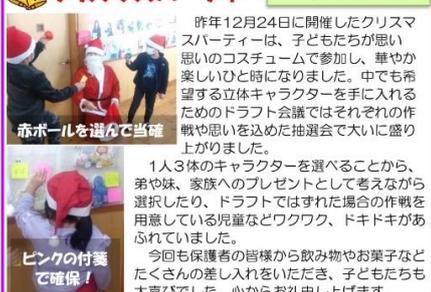
クリスマスパーティー

たくさんの差し入れありがとうございました

昨年12月24日に開催したクリスマスパーティーは、子どもたちが思い思いのコスチュームに参加し、華やかに楽しいひと時になりました。中でも希望する立体キャラクターを手に入れるためのドラフト会議ではそれぞれの作戦や思いを込めた抽選会で大いに盛り上がりました。

1人3体のキャラクターを選ぶことから、弟や妹、家族へのプレゼントとして考えながら選択したり、ドラフトではずれた場合の作戦を用意している児童などワクワク、ドキドキがあらわれていました。

今回は保護者の皆様から飲み物やお菓子などたくさんの差し入れをいただき、子どもたち大喜びでした。心からお礼申し上げます。



赤ボールを選んで当確

ピンクの付箋で確保!

17

することなく、全ての人の人権、生きる権利を大切にするとともに相互理解と協調に努めることができる子どもを共に育てるきっかけにしたいと願っています。

5. おわりに

放課後児童クラブ「クレヨンぼけっと」は開設から今年の4月でようやく3年目に入ります。知名度もなく利用者数も定員に満たない状況が続いていましたが、少しずつ基本方針や活動内容を支持、賛同していただける利用者が増えつつあります。まだまだ改善、工夫、支援員の資質の向上が必要な状況の中、つたない実践報告ではありますが、いじめや差別、偏見に傷つく子ども、傷つけてしまう子どもが一人でも少なくなり、子どもの人権感覚を育む活動の参考になれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。